

有 吉 淳一郎 教授

研 究 業 績

2026 年 6 月 8 日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年 月
著 書（共）	『英語学用語辞典』三省堂、編者：荒木一雄	1999. 1
著 書（共）	『ウィズダム英和辞典』三省堂、編集委員、編者：井上永幸、赤野一郎	2003. 1
著 書（共）	『ウィズダム英和辞典 第 2 版』三省堂、編集委員、編者：井上永幸、赤野一郎	2007. 1
著 書（共）	『ウィズダム英和辞典 第 3 版』三省堂、編集委員、編者：井上永幸、赤野一郎	2013. 1
著 書（共）	『ウィズダム英和辞典 第 4 版』三省堂、編集委員、編者：井上永幸、赤野一郎	2019. 1
論 文（単）	「中間構文に於ける RESPONSIBILITY」 <i>Kansai Linguistic Society</i> 11、9 頁	1991. 11
論 文（単）	「中間構文に於ける agency と一般性」 <i>Kansai Linguistic Society</i> 12、10 頁	1992. 11
論 文（単）	「中間構文について」『日下部徳次教授退職記念論文集』（SELL 第 9 号：京都外国語大学英米語学科研究会機関誌）、7 頁	1993. 2
論 文（単）	「英語の使役交替についての一考察」『国際研究論叢』第 15 巻 1 号（大阪国際大学紀要）、9 頁	2001. 10
論 文（単）	「動詞と共起前置詞－wipe と with/on－」『WISDOM in Depth コーパスが英和辞典を変える ウィズダム英和の舞台裏』三省堂、4 頁	2008. 10
論 文（単）	「英語の中間構文についての一考察」『花園大学文学部研究紀要』第 49 号、15～31	2017. 3
論 文（単）	「英語の中間構文について」『言語分析のフロンティア』金星堂、17～31	2019. 1
論 文（単）	「日英語の表現形式についての一考察—その対照性を通じて—」『花園大学文学部研究紀要』第 51 号、23～39	2019. 3
論 文（単）	「英英辞典を活用した英語学習指導について」『花園大学文学部研究紀要』第 52 号、1～18	2020. 3
論 文（単）	「日英語の事態把握についての一考察—認知言語学的視点か	2021. 3

	ら—」『花園大学文学部研究紀要』第 53 号、67～84	
論文（単）	「言語形式—認知の観点から—」『花園大学文学部研究紀要』第 54 号、19～41	2022. 3
論文（単）	「日英語の表現形式の対照性について—脳科学の知見を交えて—」『花園大学文学部研究紀要』第 55 号、1～17	2023. 3
論文（単）	「日英語の表現形式について—認知言語学的観点から—」『花園大学文学部研究紀要』第 56 号、1～13	2024. 3
論文（単）	「認知言語学を応用した英語学習指導—日英語における事態の捉え方に着目して—」『英語学・英語教育研究』第 29 巻、43 号、73～90、日本英語教育英学会	2024. 3
論文（単）	「日本語らしさと英語らしさ—有界性に着目して—」『花園大学文学部研究紀要』第 57 号、1～9	2025. 3
論文（単）	「日英語における事態認識と表現形式について—認知科学の知見をふまえて—」『花園大学文学部研究紀要』第 58 号、1～13	2026. 3
論文（単）	「日本語と英語の表現形式について—事態把握の観点から—」『英語学・英語教育研究』第 31 巻、45 号、77～88、日本英語教育英学会	2026. 3
口頭発表（単）	「中間構文に於ける RESPONSIBILITY」第 15 回関西言語学会	1990. 11
口頭発表（単）	「Adverbial Elements in Middle Construction」第 102 回日本言語学会	1991. 6
口頭発表（単）	「中間構文に於ける agency と一般性」第 16 回関西言語学会	1991. 11
口頭発表（単）	「中間構文：意味と形式の接点を求めて」第 17 回関西言語学会（ワークショップ講師）	1992. 11
口頭発表（単）	「英語に於ける能格構文について」第 111 回日本言語学会	1995. 10
その他（単）	「動詞 wipe と共起前置詞」三省堂辞書サイト Sanseido Word-Wise Web でのリレー連載論考	2007. 11
その他（単）	「学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅹ—『主体的・対話的で深い学び』を見える化する—」『大学教育学会誌』第 39 巻、第 2 号、大学教育学会。ラウンドテーブルに関する報告。	2017. 11